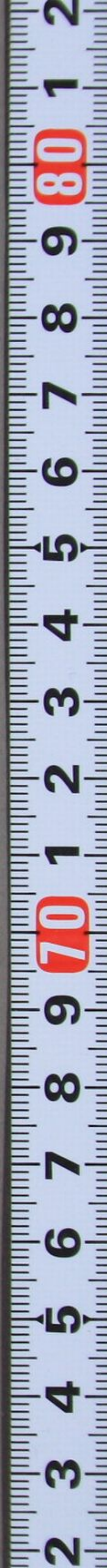


海
多

樂
作
皮

十五
編



根源實業十五編

上相三陸



種彦作國貞画喜鶴堂壽



祀 源 実 忠

廿七歳

十五歳上



實紫第十伍編上帙



種彦作
國貞画

佐野屋
發行

石山寺小參籠者源氏之作と計一向に心得一ハウニコウルと獸角也
 思ひ一昔のささ今や段々理を究め大地の速の如きものと説小疑ふ者曾々
 なる不二乃山も孝冥の御代でも人信せざ然ハ有ども空言ハ又虚説で
 通へ相の本草造紙を以て哭たりや笑うして悦ぶ道理の外法娛樂ありとれ
 吾黨乃幸ありやを以て名をも侶を實紫の面影小儼へもと板元
 数注文あせや其由縁ふ終るやいとひて年々小延一あさうが紫式部の後家
 なる話も已ふ近づたゆれを是より華ハのめく薄らけ實勝の所ハ雅蒙達の
 必適意まると今さな浅ね田舎漆彼紫筆を摘出て源氏乃大意を遠の
 らせ書とるやうに結構たれハ其俤を写繪も御劇熟多きを力めて十七編
 形ありもの桐壺笈木と記出さんあつとあつた石山ありぬ和み蒲團の
 形の東山を窓ありえと京極の家小筆とるをありづれの大御時ふこと書



つれづれの流るる女流の
いあまこころのしほける
あうたのよむむこと
あはれさうのあま
ぬるまゝこれとて
めれ給ふあり
をりそし
よのそれ
そとあひ
あがり給る流るる
あさあしきあのりおとめ
そねを給おれし母とそれ
あをけらう乃らういそ
あしとあまらうばあさゆめ



式部丞
惟規

のまのり北國
十訓抄難後
拾遺等
此草紙
長壽寺
中ふ
あふせ



齋院
少將

出したるその巻の繪をもて口画の補景とまほも猶一角の堅と誹を
手繰つゝ子や不二額の姉さんめの疎まれぬぐや

壬戌春新刊

柳亭種彦



○その巻のあはれうのあはれ
だんぢあひむわのあはれ
うらたあはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ

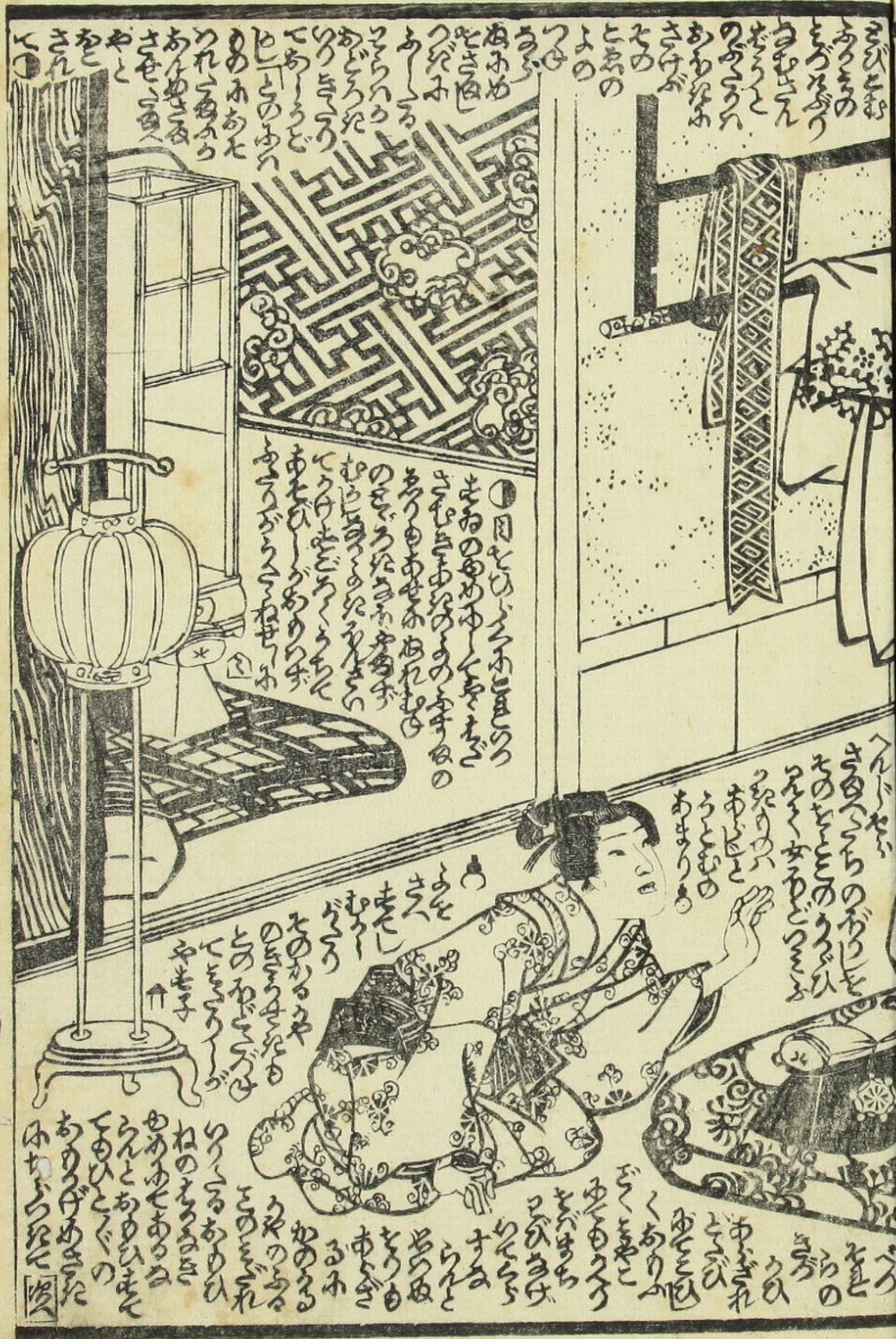
それあの
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ



あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ

あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ
あはれあひむわのあはれ





あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

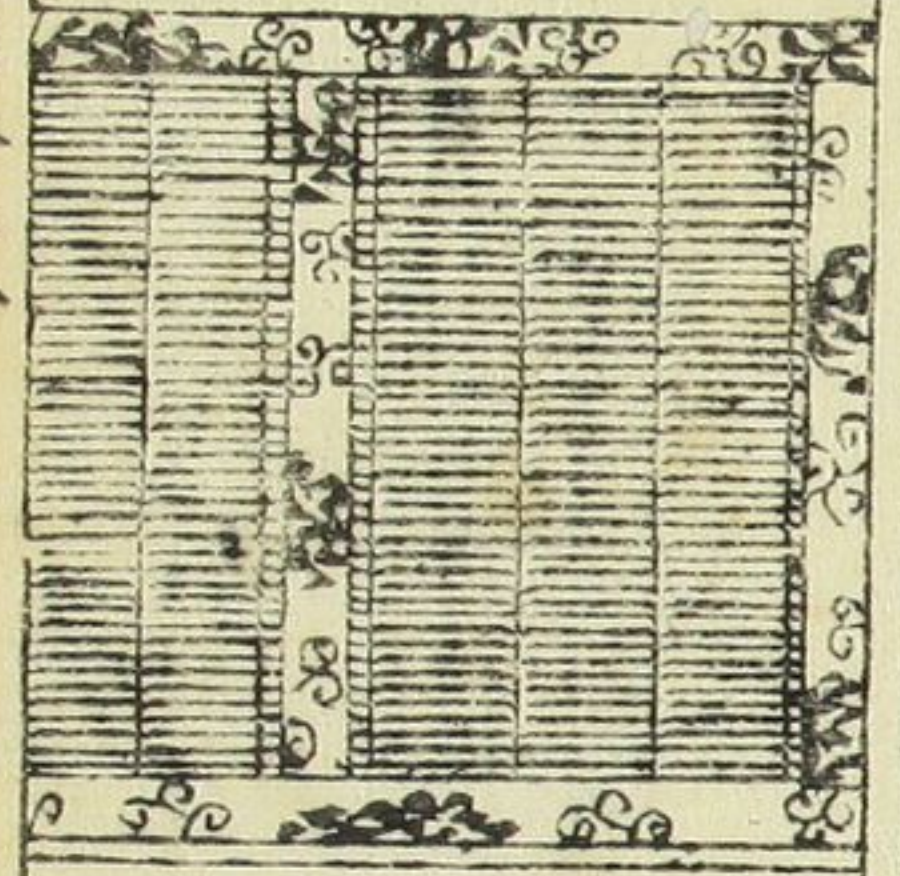


あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

さきとあひまひつ
 あつきのち
 むねとちのひまひつ
 ちのちのち
 まつたのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち

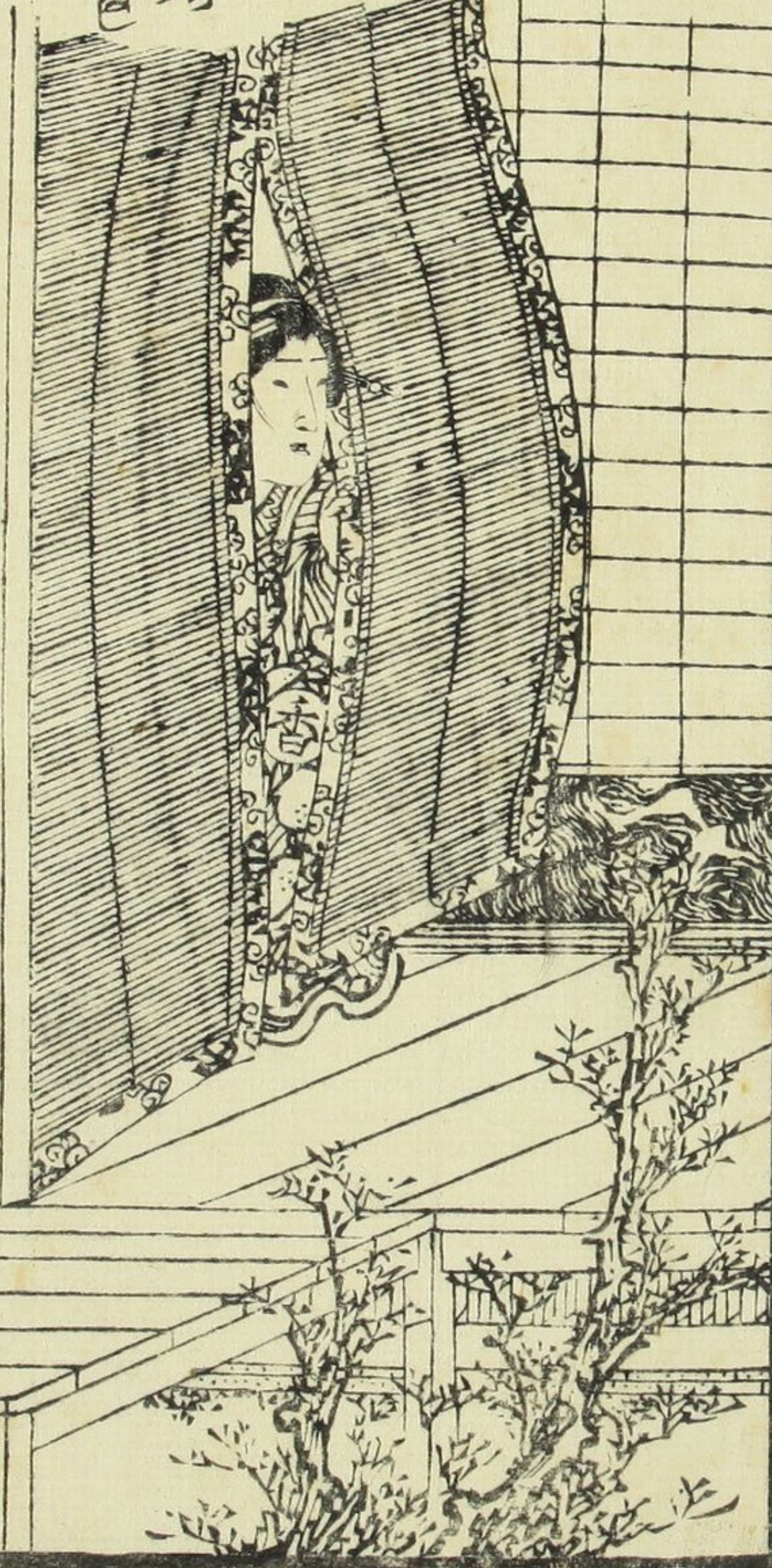


ちのちのち
 まつたのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち



ちのちのち
 まつたのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち

第百七十五



あつきのち
 むねとちのひまひつ
 ちのちのち
 まつたのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち



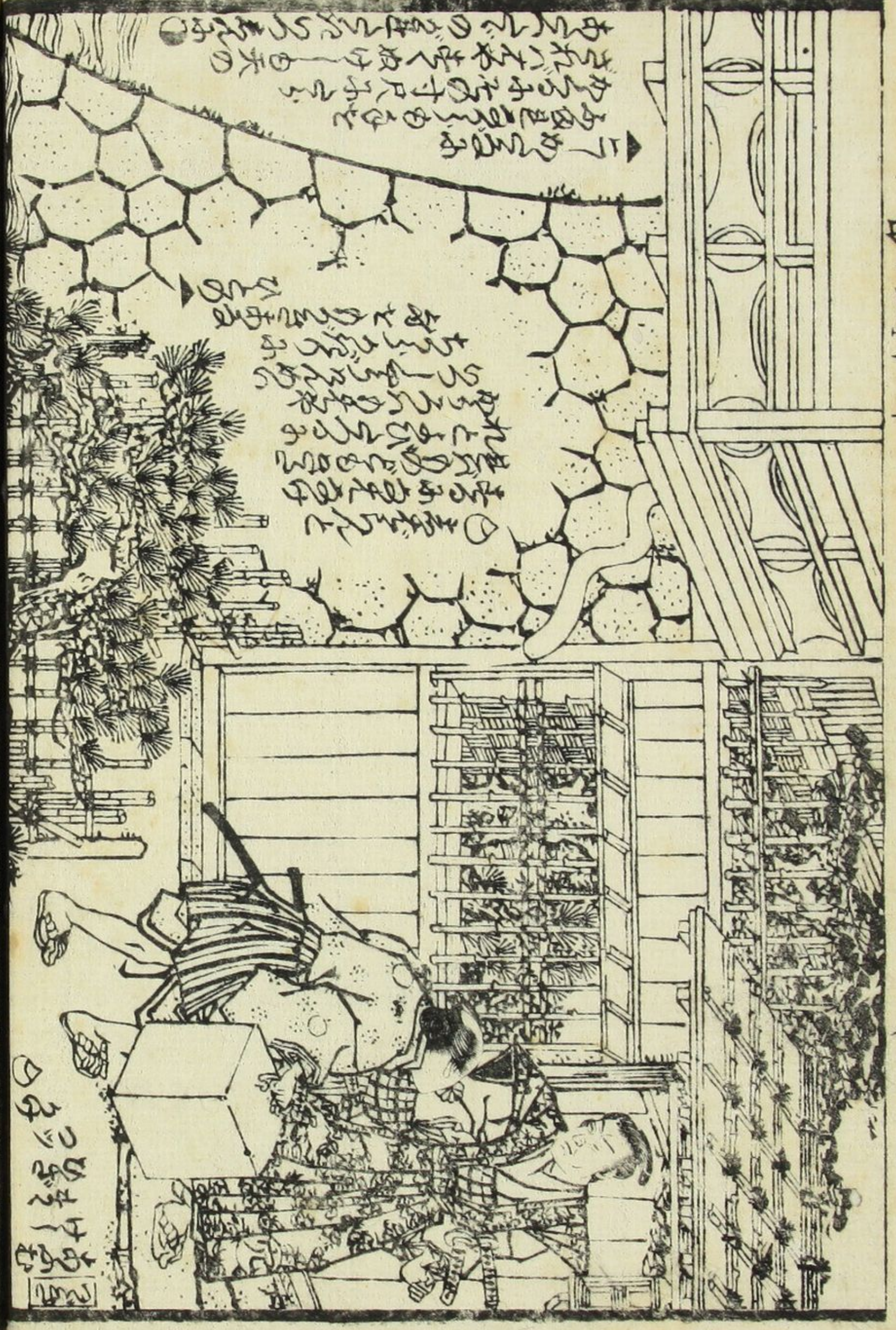
ちのちのち
 まつたのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち



ちのちのち
 まつたのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち

ちのちのち
 まつたのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち
 ちのちのち

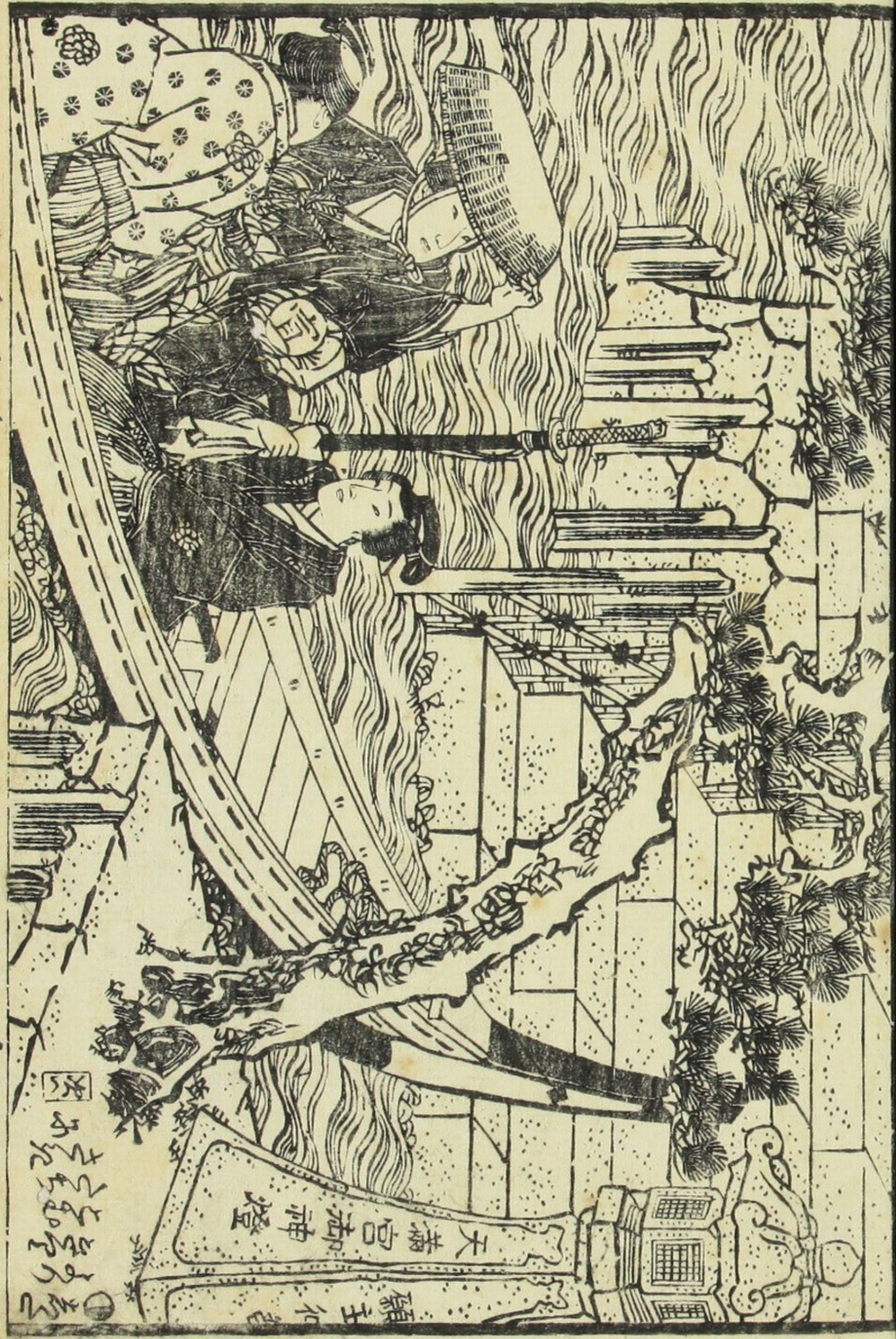
第百七十五



↑ かくまひ
 かくまひの由は
 かくまひの寸尺は
 かくまひの由は
 かくまひの由は
 かくまひの由は

△ かくまひ
 かくまひの由は
 かくまひの由は
 かくまひの由は
 かくまひの由は
 かくまひの由は

△ かくまひ
 かくまひの由は



△ かくまひ
 かくまひの由は

天満宮御神燈

願主和也



國貞畫

種彦作

外題曲五回迄

十五編下

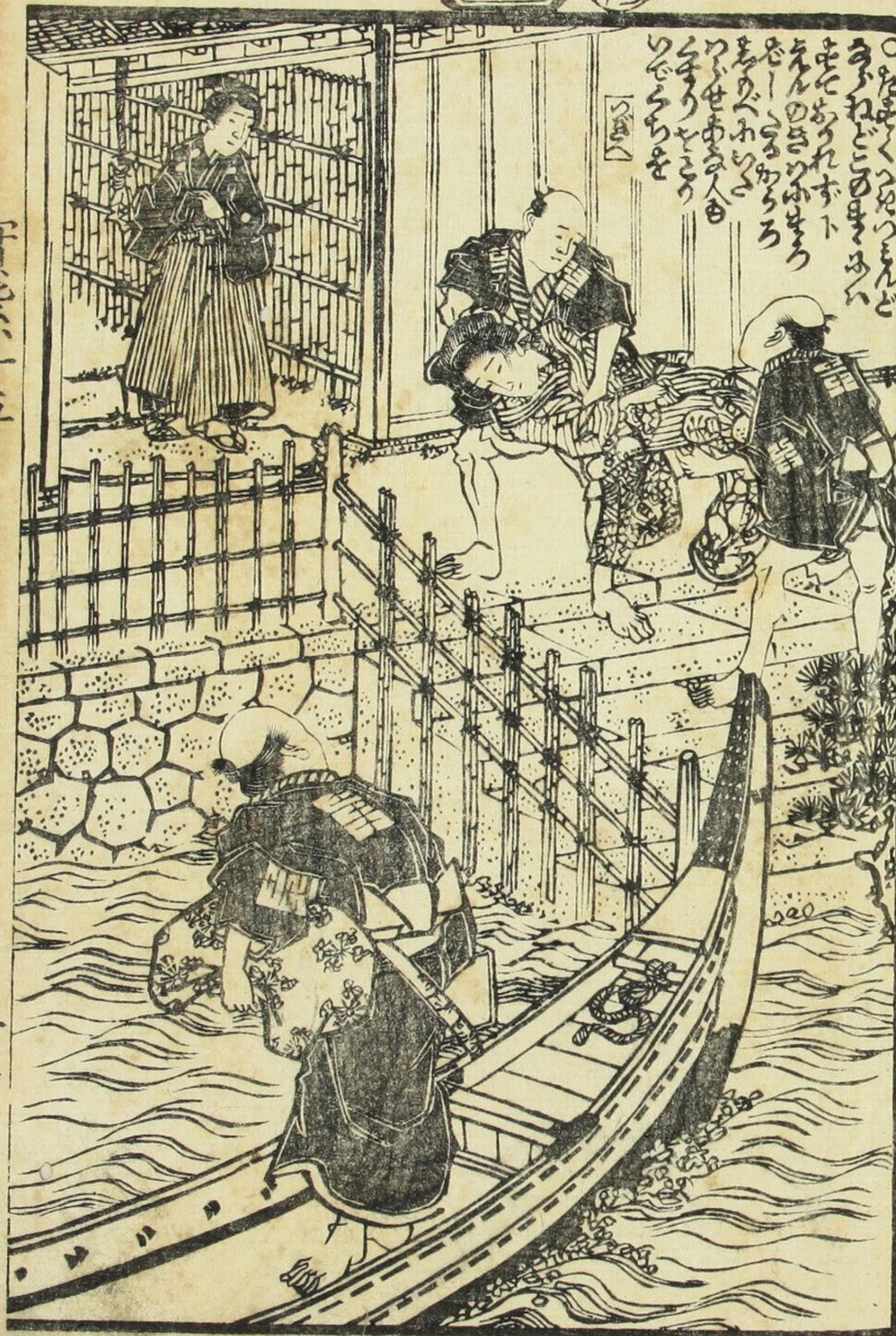
壽様

喜



三

三



○おはくつらぬのまんと
 まねどこのまふい
 まとあられお下
 きんのさつあまろ
 おしとらあろ
 おひあろ
 りせあまろ
 りせあまろ
 りせあまろ



みじき
 十五編下帳

柳亭在梅蝶樓圖喜翁堂持

乙卯年文庫



五郎おのこはあらうし
 小のちのこはあらうし
 母のちのこはあらうし
 ... (transcription of vertical text) ...



どのちのこはあらうし
 ... (transcription of vertical text) ...



ついでにせむらひのきりぎりすのしや
 こゝろのせむらひのきりぎりすのしや
 のしやのせむらひのきりぎりすのしや
 さんねん廿二日のあつたにむす
 げのあつたにむすはてしなく
 ぐれもせむらひのきりぎりす
 りれもせむらひのきりぎりす
 うちもせむらひのきりぎりす
 かたもせむらひのきりぎりす
 るく



ふのあつたにむすはてしなく
 はたてたれどあつたにむすはてしなく
 ちからちからせむらひのきりぎりす
 りれもせむらひのきりぎりす
 のあつたにむすはてしなく
 おつたにむすはてしなく

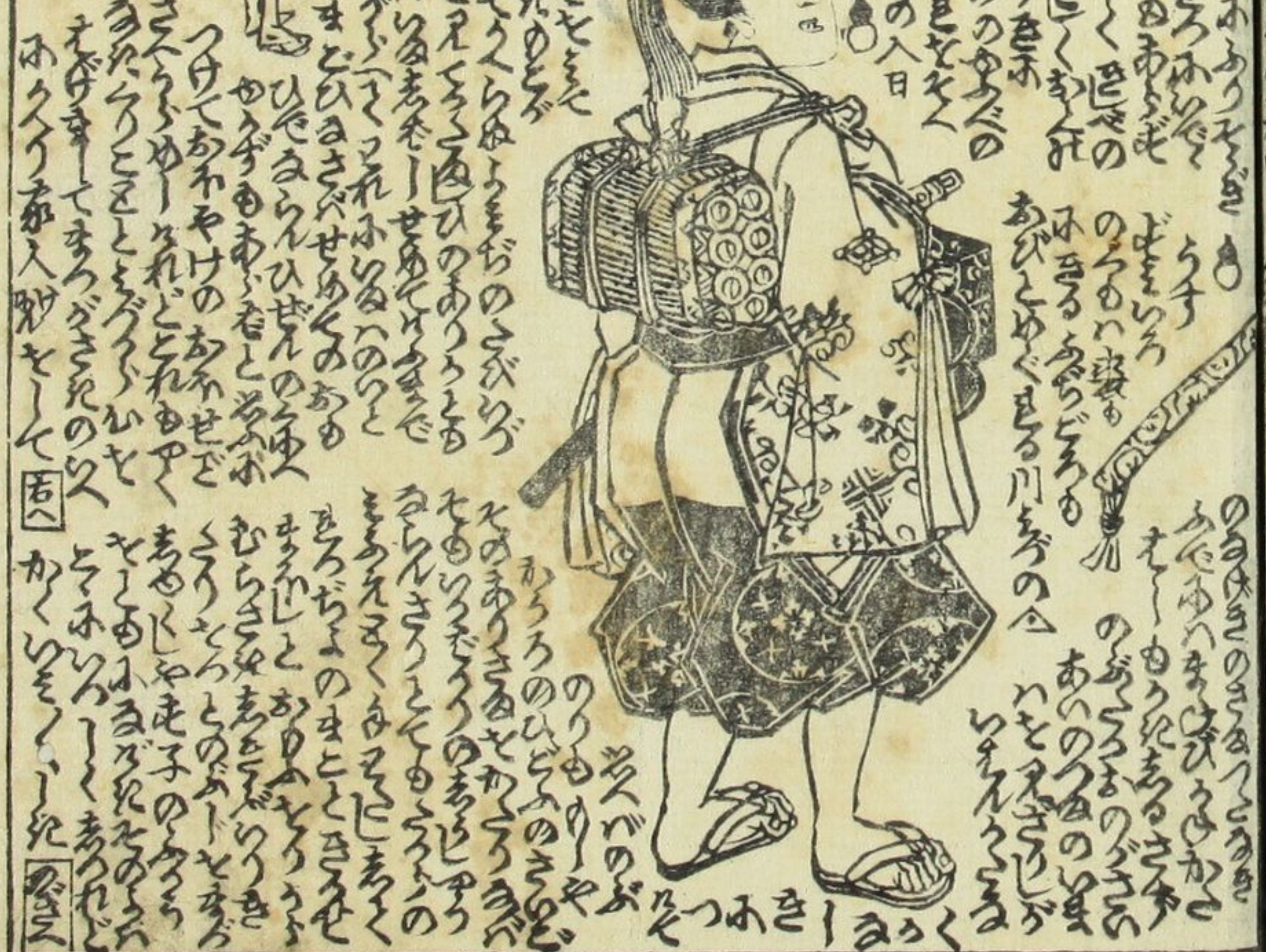


左大臣のきりぎりす
 まじあつたにむすはてしなく
 表のあつたにむすはてしなく
 ひつぎせむらひのきりぎりす
 らせむらひのきりぎりす

あつた
 十六編
 画とた
 のしや
 のしや



あつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく



あつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく
 のあつたにむすはてしなく

種彦作

此の種彦作の如きもの多くあるに
 其の最良なるものなりと云ふ者あり
 つゆも其の如きものありと云ふ者あり
 さたに其の如きものありと云ふ者あり
 のさだに其の如きものありと云ふ者あり
 ことごとく其の如きものありと云ふ者あり
 まるごとく其の如きものありと云ふ者あり
 と云ふ者ありと云ふ者ありと云ふ者あり
 あつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 りと云ふ者ありと云ふ者ありと云ふ者あり
 さるるるるるるるるるるるるるるるるるる
 と云ふ者ありと云ふ者ありと云ふ者あり
 と云ふ者ありと云ふ者ありと云ふ者あり

國貞画



この如きものあり
 あつたつたつたつたつたつたつたつたつた
 りと云ふ者ありと云ふ者ありと云ふ者あり

十六編
 善悪
 判然と
 これまの
 まるごとく
 おまひ
 りと云ふ者あり

文久二年戊辰新年鑄目録

地本繪草紙團扇問屋
 三寫
 神明前
 井佐野屋喜兵衛板

根源實紫
 十五編
 柳亭種彦作
 一壽齋國貞画

娘庭訓金鷄
 五編
 同
 同
 画作

総次郎 **琴聲美人錄**
 十七編
 柳亭種彦作
 芳貞画

花兄弟陸奥名所
 初編
 柳亭種彦作
 川國貞画

新增補西國奇談
 十三編
 為永春水作
 川國貞画



東洋書院